

真田図書館サポーターだより 第21号



一年を振り返って (2024.5.11)

真田図書館サポーターの会 会長 若林雅一

コロナ禍により、総会の3年越の文書評決と活動制限が続き、気が滅入っている状況の中、図書館の内外で顔を合わせる多くの会員さんからは、「今年こそは顔を合わせての総会を実現しましょう」との御提言をいただき、心強くありがたい思いでした。幸いにも5月には5類に分類され、総会を行い通常の活動が可能になり今に至りました。

総会で議決された事業は、つつがなく実行していただき、特にメインイベントであります図書館まつりには、3年連続して東京芸術大学出身のプロフェッショナルをお招きして演奏会が開催できたことなどは、会員の中にマーケティングやコーディネイトに秀でた方がいらっしゃったことが実現の大きな力になりました。未永く開催できればと念じております。

会が発足して13年を経過しました。会員の高齢化と共に会員減少の途にあります。2つの部会がそれぞれの活動から一緒になって活動している現状ですが、事業実施には終始協力し合って良い効果が出ているのではないのでしょうか。今年もともにサポーターとして活動していただける方の募集をしてまいりたいと考えています。

1年を振り返って、私は夫婦ともに体調不良の年であり、皆さまには大変ご迷惑をおかけしたと存じます。大変お世話様になりまして本当にありがとうございました。

Sanada Library Concert

真田図書館コンサートによせて

相澤 登貴子

令和3年に初めて真田図書館コンサートに参加し、昨秋まで3回も楽しい時を過ごすことができました。海外や国内各地でご活躍されている一流の方々が、地元真田図書館で演奏されるコンサートですが間近で鑑賞でき、至福の時間を他の多くの方と共有することができております。

令和3年、4年は、NHK交響楽団に所属するチェロ・コントラバス奏者である長野市出身の双子の西山ご兄弟が演奏されました。正装のタキシード姿で登場。前半のクラシック曲は分かりやすい説明がなされ、後半には日本の懐かしい唱歌（『故郷』や『浜辺の歌』など）も演奏されました。お人柄が伝わる優しい音色が館内を包み込むのを感じました。

昨秋は、地元傍陽地区出身の東京芸術大学大学院生でマリimba奏者の小林公哉さんたちが演奏されました。初めてのマリimba鑑賞でしたが木管楽器のような温かい音色と四本のバチを巧みに扱って演奏された小林さんらのパフォーマンスに圧巻しました。アンコールでは、傍陽地区にも縁のある映画「男はつらいよ」の寅さんのテーマ曲で会場を盛り上げて下さいました。普段は静かな図書館に美しい音色と楽しいトークがあふれ、来館された方々も心温かく癒されたことでしょう。

最後になりますが、この素晴らしい図書館コンサート開催にあたり、ご尽力下さいました真田図書館、真田図書館サポーターの会の皆様に心より感謝申しあげます。今後も図書館コンサートが末永く開催され、多くの方々に鑑賞してもらえることを願っております。

【令和4年度コンサート】 【令和5年度コンサート】

【コンサート終了後の演者
囲んでの記念写真】



サポーターの皆さんも
なんだかやり遂げた表情です

『探検！ 真田町』 楽しい石と地質

講師：田畑 和秀 氏(元上小理科教育研究会会長、元小学校長)

第1回：6月24日（土）「珍しい石・貴重な石」（24名参加）

第2回：7月22日（土）「真田町の成り立ち」（21名参加）

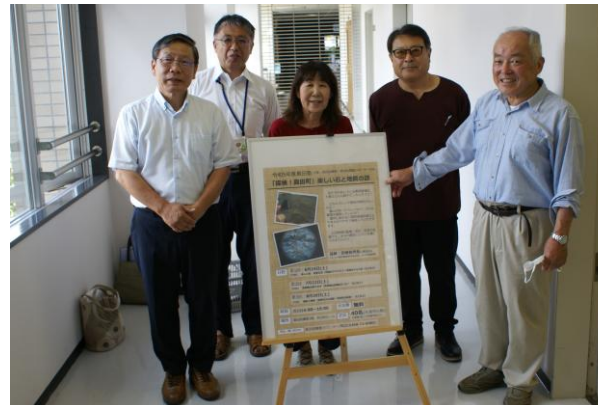
第3回：8月23日（土）「地形と地質」（20名参加）

真田地域で採取された石が持つその魅力や価値から、それが太古生成された大地の変化によって、いまある地形や地質の成り立ちまでを分かりやすくお話ししていただきました。

【講座の様子】



【講師とスタッフの集合写真】



田畑氏には分かりやすい資料のほかに御自身が採取された珍しい石・貴重な石を会場に並べていただきました。また受講者へ持ち帰りのための標本石を用意していただきました



真田塾

上田城本丸櫓再建をめぐって 真田氏と仙石氏の角逐と両氏が上田地域に遺したもの

講師：高橋 陽一氏（小諸市教育委員会文化財・生涯学習課付学芸員）

和根崎 剛氏（上田市櫓復元推進室 室長）

1月13日（土）実施（36名参加）

関ヶ原の戦いにおいて破却された上田城を再建した仙石氏が残した上田・小諸の足跡についてお聞きしました。上田のため池の改修や上田紬の振興に尽くしたことも学びました。

【講座の様子】



真田塾

主催：真田図書館・真田図書館サポーターの会

上田城本丸櫓再建をめぐって 真田氏と仙石氏の 角逐と 両氏が上田地域に遺したもの

上田城本丸櫓の復元に向けて、現在様々な動きがあります。その最前線最新の情報を余すことなくご紹介し、上田地域は戦国時代強力な勢力の角逐があった土地ですが、その様子とその結果何が遺されたのかもお伝えします。

講師

高橋陽一氏（小諸市教育委員会文化財・生涯学習課付学芸員）

和根崎剛氏（上田市櫓復元推進室室長）

日時：令和6年1月13日（土）

午後2時～午後4時

場所：真田図書館多目的ルーム

定員：先着40名

申込受付：令和5年12月6日（水）から

電話（72-8080）若しくは

真田図書館（月曜日休館）

窓口で

参加費：無料



左：上田城（復元模型）



上田城本丸櫓復元模型

真田図書館には、『真田氏』関連の書籍が多数所蔵されています



第13回図書館まつり

本のリサイクル市・スペシャルおはなし広場

○本のリサイクル市 (来場者120名)

事前に多くの方に提供をいただいた本のうち、800冊程の本をお持ち帰りいただきました。会場は多くの人でにぎわいました。

本の種類ごと並べての前日の準備



★ 当日は大盛況でした！ 😊



お帰りのお土産も用意しました



○スペシャルおはなし広場

①ネコリョーシカ さん (おはなし・歌・読み聞かせ)

②舞沢智子 さん (腹話術ショー)

③鳴沢今日子 さん (折り紙教室)

会場にたくさんの子供たちの歓声と笑い声が響きました。拍手喝采のうちイベントは終了しました。

ネコリョーシカ さん 昨年引き続き
魅せていただきました。



舞沢 さん
カエルくん
かわいかったです



お題はサンタクロースのリース
作り でした。

父の愛した本たち



図書館の窓
桜花の候
空は続いていく

昨年実施された図書館まっりの準備で、各家庭でこれからは読まないと思われる書籍の寄贈を広報等をお願いした所、多くの人たちが協力して下さいととてもうれしく思っていました。

その時、お母様と息子さんでしょうか、二人でたいそう立派な装丁の日本史に関する本をテーブルに置かれました。私は思わず「ずい分と立派な本ですね。」と言うと息子さんらしき人が「ここにあるのはすべて父が生前何度も読んでいたもので、棚に並んでいる本を見ると父の事を……」私も去年父を亡くしたばかりなので言葉が少なくともその寂しさや悲しみが伝わってきました。私は一冊一冊本のタイトルを見ながらその男の人の心が胸に響いてくるのでした。私は「本当にいいのですか。」と言うと彼は少しニッコリしながら「来年も持ってきます。」と答えて下さった。その瞬間時間が止まったように感じ、二人に何度もおじぎをしました。

私も宝物のようにしている本がありますが、私の次にどなたかが読んで下さればそれで良いことにしました。

あの時の二人、どうか元気で来年もここへ来て下さい。

図書館サポーター 林 良



図書館まっりの事前準備のとある風景



絵本×大道芸ライブ（午前の部） 読み聞かせ講演会＆座談会（午後の部）

2月3日（土）に大道芸人オマールえび（鈴木仁志さん）を講師に迎え、絵本の読み聞かせに組み合わせた大道芸パフォーマンスと、読み聞かせに対する熱い想いとテクニックなどについて講演をしていただきました。おはなし会の方々も参加し、熱心に話を聞いていました。



みんなの手で地域の図書館を育てましょう

真田図書館のサポーター活動の始まりをご紹介します。

市町村合併前、真田町では住民の図書館建設への熱い思いから建設資金の積立を行ってきました。そして新市合併後に図書館整備の検討が本格化し、整備にあたってどのような図書館にしていきたいか研究するため、住民有志で図書館建設運営研究会が組織され、真田地域で必要とされる図書館の機能などから開館後の運営についてまで話し合われました。その中で「地域の図書館を自分たちの手で支え盛り上げていこう」という話がまとまり、研究会が母体となり平成22年11月の新真田図書館開館に向けて、真田図書館サポーターの会が発足しました。

真田図書館は「市民協働 市民を支え、市民が支える図書館づくり」をスローガンとして開館し、サポーターの会では、「都合のつくときに」、「短時間でも」ということで活動が始まりました。

サポーター活動の内容は様々で、返却された本をきれいに本棚に並べて、次の方が気持ちよく借りられるように日常的に活動したり、建物の外の花壇の草取りをしてきれいな景観で利用される皆さんをお迎えできるような活動をして

います。また、図書館とともにおはなし広場やコンサート、図書館まつり、講座の運営を行っています。

現在の会員数は41人です。今年度は会員相互間のコミュニケーションを深めるような企画も考えていきたいと相談しています。皆さんのご都合のつくわずかな時間でかまいませんので、私たちと一緒に真田図書館で活動してくれる方を募集しています。ご連絡・お問い合わせは真田図書館までお気軽に!!

図書館サポーター 飯島 和徳

真田図書館サポーターの会と真田図書館について思うこと

真田図書館は真田地域自治センター（旧真田町役場）の敷地内にあります。

この場所は、松代から地蔵峠を経て傍陽から至る街道と上州沼田から上田に至る街道が交差する地点にあり、古来から人や物資の往来の接合点として重要であったと聞いたことがあります。



《尾引城跡から図書館を望む》

現在真田図書館サポーターの会には多くの方が在籍されており本の配架・修理、花壇の整備、図書館イベントへの企画・運営・実施に精力的に取り組んでおられます。

このように図書館運営に自発的に関わっていること



は稀なことでありますし、昨今の住民自治が求められる時代にあっては得難い存在です。

人は人との交わりがあって変われるものと思いますので、真田図書館サポーターの会にあっては広範囲の世代や真田地域以外にも広く人を求め、知の交差点として変容していただくことを祈念します。

真田図書館 次長 菊地 正志

おはなしひろば

毎月第3土曜日は『おはなし広場』として、地域の子供たちなどに紙芝居、朗読劇、歌などを披露しています
出演団体は7団体ありますがその中の『ネコリョーシカ』さんにメッセージを寄せ

ネコリョーシカがやってきたー

小松 順子（ネコリョーシカ）
（図書館サポーター）

ネコリョーシカは、猫好きの女性4人が集まって作った朗読ユニットです。

図書館のおはなし会で、絵本や紙芝居を読んだり、歌を歌ったりしています。ときには恐竜（の中の人）になって、みなさんと一緒に踊ったりします。そんな私たちのことを少しお話ししたいと思います。

2月のおはなし会はネコリョーシカが担当しました。2月22日は猫の日なので、猫好きのわたしたちにとってこの月は特別な月です。猫が登場するお話とおやつを持ち寄って、小さなお子さんにも、大人の方にも楽しんでもらえるお話にしようと喧喧囂囂(けんけんごうごう)しながらプログラムを決めました。結局は自分たちが好きであったり、おもしろいと感じたお話を選びました。



当初読もうとした絵本から変更したお話がありました。「ねえ だっこして」(竹下文子)という絵本です。お母さんと赤ちゃんを見つめる猫の切ない気持ちが描かれているのですが、メンバーが読んでいる途中でどうしても涙がこぼれてしまうので諦めました。そういうお話は結構あって、「100万回生きたねこ」(佐野洋子)や「やさしいライオン」(やなせたかし)、「字のないはがき」(向田邦子)などはみなさんの前で読むのは、私たちには難しいです。どれも良い本なのでぜひ読んでみてください。



「ネコリョーシカが、やってきたー！！」のかけ声で始まった2月のおはなし会は、小さなお子さんたちがお話を聞いてくれ、最後に登場した恐竜たちと一緒にラジオ体操をし楽しんでもらいました。

これからもみなさんに喜んでもらえるような、そして自分たちも楽しくできる、おはなし会にしたいと思います。楽器を使ったりときには落語を取り入れたり、大人だけのおはなし会もやってみたいとメンバー同士で話しています。どうぞみなさま、これからもネコリョーシカをよろしくお願いします。

図書館と私～六文銭の扉を開けて～

塩沢 理恵



私は、この図書館が好きです。赤い六文銭の扉を開けると、静かなワクワク感が訪れます。今日は、どんな本との出会いがあるかな、今日の本の紹介コーナーのテーマは何だろう、まずは、予約本を受け取ってからゆっくりしよう…等々、ゆったり過ごせる時間が始まります。

子どもの時、学校の図書室や市立図書館の本がずらりと並んだ静かな空間が好きでした。まだ、夢見る少女だった私の世界を広げてくれた数々の童話や伝記、また、市立図書館では、自習室で静かに勉強している高校生に憧れました。真田に住むようになってからは、旧図書室で子ども達の絵本をよく借りました。そして、古希を迎える今でも、真田図書館は、私の生活の一部です。



私は、図書館で開催される、子どものためのお話会、図書館まつりや講演会、音楽会、そして、新年の「本の福袋」等、数々のイベントがとても楽しみです。

「本の福袋」の企画は、普段自分が選ばないジャンルの本と出合うことができます。音楽会も、地元出身の演奏家の方を招いていただき、本格的な音楽に触れることができます。素晴らしい企画だと思います。また、ここの児童室は、居心地がとてもいいです。乳幼児や小さい子ども達が利用しやすく、安心して過ごせるので、私も孫たちと利用しています。

図書館で出会った絵本の中に、「消防自動車じぶた」があります。先日、孫たちが我が家に泊まったとき、寝る前の布団の中で読んであげました。息子達にも読んで聞かせたこのお話を孫たちと共有できるなんてとても幸せなことです。これからも、いろんな本との出会いを楽しみに図書館に通いたいと思っています。

図書館職員の皆様、図書館設立委員のメンバー、サポーターとして 10 年以上活動をしている地域の方々が、この真田図書館を支えてくださっているおかげで、私達は誰でも、いつでも、ここに立ち寄って、ひと息つくことができます。

本当にいつもありがとうございます。これからも、この図書館が地域のオアシスとしてずっと続いて行くことを願っています。

インターンシップ実習を終えて

清泉女学院大学人間学部 渡邊依生

2月中にインターンシップ実習生として計5日間、真田図書館で活動しました。

今回3日の絵本×大道芸ライブおよびボランティア講座、8日のブックスタート事業、17日のおはなし広場、20日の移動図書館車乗務とイベントや通常業務以外の実習をたくさん経験させていただきました。私が特に印象に

残ったイベントとして8日のブックスタート事業を挙げます。ブックスタート事業では文字通りお子さんの初めての本を選ぶ手伝いをさせていただきました。私自身が末っ子ということもあり、幼少期に持っていた絵本に関してはお下がりのものが多かったと記憶しています。

そのせいもあり、初めての本を渡すというのは少々プレッシャーに感じる部分もありました。しかしいざ一冊渡してみるととても喜んでいただき、その後はリラックスして対応できました。他にも私が読み聞かせをし、選んでいただく機会もありました。「楽しんでください」と本をお渡しすることも含めて貴重な経験だったと思います。



また実習期間中、何名かのサポーターの方とお話したり、実際に配架を見学したりする機会がありました。3日のボランティア講座ではサポーターの方がたくさん参加されていて、地域コミュニティの中の図書館というものを実際に感じる大変貴重な体験ができました。事前説明の際に「真田図書館は上田地域の図書館では珍しく、年間貸出冊数が近年増加傾向にある」という話を聞きました。コロナウイルスの流行やインターネットの普及で図書館利用の機会が減っているというのはよく聞く話です。実習期間中にその理由を考えてみましたが、やはり地域に根差しているという部分が大きいように思います。利用者の方の年齢層が広いこともありますが、特にサポーターの方と実際にお話しする中で強く感じられました。

最後にインターンシップ実習自体が初めての体験でしたが、図書館員の皆さん、サポーターの皆さんのおかげでとても実りある実習となりました。ありがとうございました。

真田図書館でも毎年、職場見学や職場体験の小学生や中学生を受け入れています
また大学生のインターンシップを受け入れています



A photograph of three staff members standing in a room. On the left is a man with glasses, wearing a grey sweater over a blue shirt and a dark blue apron, holding a bouquet of blue and white flowers. In the center is a woman with dark hair, wearing a patterned top and a dark blue apron, holding a bouquet of pink and white flowers. On the right is another woman with dark hair, wearing a white shirt and a dark blue apron, holding a bouquet of yellow and white flowers. They are all smiling. In the background, there are shelves with various items, including books and a small display case.

A photograph of three female staff members standing in a library. They are all wearing dark blue aprons over their personal clothing. The woman on the left is wearing a black sweater and white shoes. The woman in the center is wearing a light blue button-down shirt and dark shoes, and she is holding a white, round, plush object. The woman on the right is wearing a light pink cardigan and dark shoes. They are standing in front of tall wooden bookshelves filled with books. The photo is framed with a white border.

図書館サポーター 内田 元子